

令和七年度 帝塚山中学校 一次A入学試験問題・国語 (その一)

受験番号

※答えはすべて解答用紙に書きなさい。 ※選んで答える問題は記号で答えなさい。

※特にことわりのないかぎり、句読点やかぎっこはすべて字数にふくみます。

※設問の都合上、本文に一部省略があります。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

しばしば民主主義を支えるものは「公共精神」だなどといわれます。もっともらしくそういわれると、何かわかったような気分になってしまふのではないでしょうか。特に、西洋の民主主義を機能させているものは、市民の公共精神であって、どうも日本にはそれが欠けている。そのようにいわれると「なるほどそうか、それで、日本の民主主義はうまくいかないのか」などという思っってしまう。

本当にそうなのでしょうか。ところが他方では、民主主義は個人の自由や権利という[※]観念と深く結びついている、民主主義の基本前提は、一人ひとりの人間が自分の利益を追求し、自分の権利の主張から出発することだともいわれる。こうなると、先ほどの、民主主義とは公共性を前提として、公共の場で自己利益を離れて議論をする政治だという理解とは²かなり食い違ってくるでしょう。

ところが、いわゆる民主主義者は、この両方を唱えているように見えます。都合よくその時その時で使い分けているように私には感じられます。あるときには個人の権利を主張し、あるときには公共性を強調する。人間は、そんなにうまく使い分けられるほど器用にはできていません。しかし、個人の意識と公共性がどんな関係になっているかという点はつきつめて考えられていないのです。

民主主義を支えているものは市民の公共性であって、³それこそが西洋の民主主義を日本のそれから区別しているものだ——この見方の最大の[※]理論的支柱は、[※]ハンナ・アレントの議論でしょう。いまや[※]政治哲学の「現代の古典」になってしまいました。

彼女は、古代ギリシャのポリスの独特の[※]解釈に基づいて西洋の公共性の観念の起源を提示しました。⁴もっとも、あまりに独特過ぎて、多くの批判にさらされていますが、ひとつのわかりやすい図式を提示したことは間違いありません。アレントに従って、要約しておきましょう。

古代ギリシャにおいては、「公」の領域と「私」の領域ははっきりと分かれていました。「私」の領域は「オイコス」と呼ばれますが、「オイコス」とは「家」のことです。[※]アテネはたえず他国や他のポリスと戦争をしており、[※]捕虜にした兵士などを[※]奴隷にしていたので、ある程度の家柄の貴族やそれなりの市民になると、奴隷をもち、彼らに生産活動や家事を任せていました。自分の持っている農地で作物を育てたり、生計を維持する経済活動を行う。それが「オイコス」＝「私」の領域です。

それに対するのが「ポリス」で、これはいうまでもなく、「都市」であり、同時に「政治」です。アテネの場合、アテネの市民権をもった成人男子が[※]民会を構成し、また広場や集會場で議論をしたりゲームをしたりしていた。市民の主たる役割はむろん政治です。これが「ポリス」＝「公」の領域ということになります。「ポリス」は[※]ローマの「レスプブリカ」を通して、今日の「[※]パブリック」へとつながるのです。

⁵簡単に図式化すれば、古代ギリシャでは、人間の生存にかかわる「労働」は「私」の領域にあり、政治を中心にした言論活動や芸術的制作（神殿や彫像など）にかかわる活動は「公」の領域なのです。⁶とりわけ、アレントは、言葉の応酬によって、自らの考えを表現することは人間の重要な「活動」であって、これこそが「公」だとしたのです。政治とは、自らを民衆の前に現すことなのです。ポリスにおいて自分が何者であるかを見せること。それが政治、特に民主政の本質であり、それこそが公共性だという。

こうして、ギリシャ人にとって、私的な領域と公共の領域はきれいに分けられており、彼らにとっては「公」の領域こそが政治であった。それが、西洋の政治における公共性を理解するいわば原型だとアレントはいうのです。

ただ、アレントの理解では、⁷近代に入ると話はそう簡単ではなくなる。近代社会はもはや奴隷社会ではありません。誰もが、部分的には経済活動に⁸従事する労働者であり、部分的には政治に関心をもつ市民になる。「公」と「私」が入り交じり、そこに巨大な「社会的」と呼ばれる領域ができてくる。これがアレントの議論です。

【A】、近代社会になって、労働者階級が政治的参加を要求してくる。[※]社会福祉などによって、国家が人々の生活を保障するようになる。[※]今日のアベノミクスなども、もともと「9」の領域にある経済問題です。こうして近代社会になると、「9」の領域だった「生活」や「経済」が「10」の問題になってくる。もはや明確に「公」と「私」を区別することは難しいといっよいでしょう。

【B】、いくら「公」と「私」がともに「社会」という領域に覆われても、本来、政治は市民による「公的な活動」である、という理解は変わりません。そこに政治というものの本質があるということです。

【C】、アテネの民主政においても、それほど「公」と「私」がきれいに分離していたとも思えません。だからこそ、[※]プラトンは、

令和七年度 帝塚山中学校 一次A入学試験問題・国語 (その二)

民主政のもとでは、市民は次々と自由を求め、それはやがて[※]放埒に墮^だし、政治家に多くを要求し、それでも自分の言い分が通らなければ、その政治家を非難し、自分の言い分を聞いてくれるような人物を探し出してくる。こういって¹¹民主政を批判していたのです。

市民にとって経済的に満ち足りているからといって、決して人は「公共精神」を発揮できるというようなものではないでしょう。「公」のなかに「私」がいくらでも紛れこんでくるでしょう。個人的で私的な動機はいくらでも「公」のなかに入り込んでしまう。

【D】それでも確かに広場（アゴラ）という公開の場で、討議をしたり、演説をしたり、遊戯^{ゆうぎ}をしたり、というそのやり方を「公共的」ということはできます。ひとたび家の外に出る、特に人の集まる広場や人の通る街路に出れば、そこは誰のものでもあり、同時に誰のものでもない「公共」の場所である、という意識はあったでしょう。

いや、あつたどころではなく、それは、今日のヨーロッパの都市を少しでも歩いてみればすぐにわかることです。この公共意識は、現代にいたるまで着実に流れています。確かに、家の扉^{とびら}の内側は「私」の世界で、他人も国家も干渉^{かんしょう}できません。しかし、ひとたび家の外に出ると、そこは公共的な場所です。家の内という「私」の世界とは異なったルールがそこにはある。家の内側ではどれだけ騒^{さわ}いでくつろいでいても、いったん外へ出ればそれなりの公衆道徳を守らなければなりません。何やら、¹²日本の昔の「長屋」などとはだいぶ違うのです。

しかもそこでは、基本的に人々は対等です。子供だからといって誰も甘くはみてくれません。公共の場にいる限りは、子供も基本的

に大人と対等な一人の人間になるのです。このような「公共的な意識」こそが民主主義を支えている、といつてよい。

アレントがそこまで書いているわけではないのですが、これがいわばアレントの示したギリシャのポリス・モデルから[※]示唆^{しそ}されることなのです。ギリシャで現実^{じつじ}にそこまで「公」と「私」が分離していたかというところ、いささかあやしい。しかし、[※]概念上^{がいねんじょう}の理解として、¹³この「公」と「私」の分離が民主主義の基本構造だという考えは、確かに、西洋の市民的生活のある断面を見事に切り出しているともいえるでしょう。

(佐伯啓思『さらば、民主主義―憲法と日本社会を問いなおす―』より)

※観念：物事に対する考え。

※理論的支柱：考え方を支えている人や物。

※ハンナ・アレント：ドイツ人。一九〇六年生まれ、一九七五年死亡。アメリカ合衆国の政治思想を研究した。

※政治哲学の「現代の古典」：ここでは、政治理論についての古い考え方、という意味。

※アテネ：古代ギリシャの首都。

※捕虜：戦争などで敵にとらえられた者。

※奴隷：他人の支配下でさまざまな仕事をさせられている人。

※民会：市民によって構成され、さまざまなことを決定するための集まり。

※ローマの「レスプブリカ」・パブリック：「ローマ」はイタリアの首都。「レスプブリカ」・「パブリック」はどちらも「公」の意味。

※社会福祉：国民生活を保障するため、貧しい人や保護を必要とする人に対して行うさまざまな支援^{しえん}。

※今日のアベノミクス：二〇二二年～二〇二〇年当時の日本で行われていた、安倍元首相による経済政策。

※プラトン：古代ギリシャで活躍^{かつやく}した哲学者。 ※放埒に墮^だし：気ままにふるまい程度が低くなっていくこと。

※長屋：一つの建物の中に複数の住戸が作られている、日本特有の集合住宅のこと。

※示唆：それとなく示すこと。

※いささかあやしい：ここでは、少し疑わしい、という意味。

※概念：おおまかな意味内容。

1 ――― 1 「日本の民主主義はうまくいかない」とありますが、それはどういうことですか。その具体的な説明として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

A 日本では、国民それぞれが周りや他人に気を配って行動できないから、民主主義が実現しにくい、ということ。

I 日本では、国会議員の公共精神が欠けており国民に配慮していないから、民主主義が達成されにくい、ということ。

U 日本人は、自分の利益ばかり追求し自分の権利の主張しからないから、間違^{まちが}った民主主義になりやすい、ということ。

E 日本人は、大勢がいる場で意見をはっきりと述べられないから、誤^{まちが}った民主主義を訂正^{ていせい}できない、ということ。

2 ――― 2 「かなり食い違^{ちが}ってくる」とありますが、そのような「食い違^{ちが}」いが起こるのは、何と何の関係を考えられていないからですか。本文から九字でぬき出して答えなさい。

3 ――― 3 「そこそが西洋の民主主義を日本のそれから区別しているものだ」と同じ内容を説明している一文を―― 3 より前の本文からさがし、はじめの五字をぬき出して答えなさい。

令和七年度 帝塚山中学校 一次A入学試験問題・国語 (その三)

4 「もっとも」と同じ使い方をしているものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 魚の骨ぬきは非常に細かな作業だ。彼がそれをいやがるのももっともだ。

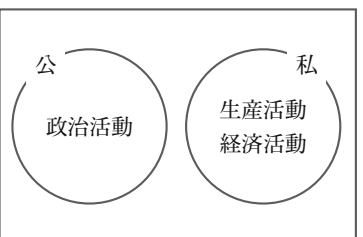
イ 旅行には全員が参加します。もっとも、参加しない人も二、三人います。

ウ 日本には数多くの都市があり、その中でももっとも人口が多い都市は東京です。

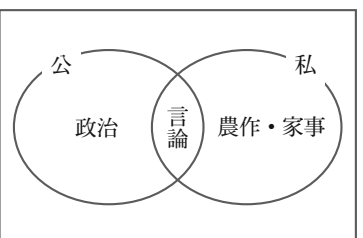
エ 彼女の言い分を聞いてみたが、やはり納得できななかった。もっともらしい説明ではあったのだが。

5 「簡単に図式化すれば」とありますが、実際に「図式化」とするとどのような図になりますか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

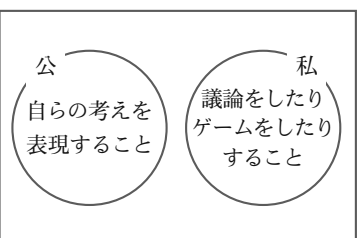
ア



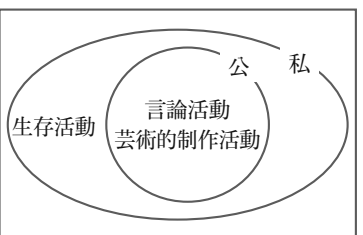
イ



ウ



エ



6 「とりわけ」と同じ意味を表すものを、次の中から選んで答えなさい。

ア さらに イ それから ウ 例えば エ 特に

7 で囲った部分に題名をつけるとしたら、どのようなものがふさわしいですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 民主主義者はその時々に応じて都合よくふるまう

イ 市民の公共精神によって西洋の民主主義は機能している

ウ 西洋における公の意識は古代ギリシャから始まる

エ 古代ギリシャでは「公」の領域こそが政治であった

8 「近代に入ると話はそう簡単ではなくなる」とありますが、それはなぜですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 国同士の争いが激化し、国民を守らなければなくなった近代社会では、国家が人々の私生活まで保障する余裕よゆうはなくなり公的な領域しか保障できなくなったから。

イ 文明が発展し、身分に関係なく誰もがさまざまな分野に関わるようになった近代社会では、選ばれた成人男子だけで政治を運営することは難しくなったから。

ウ 奴隷制がなくなり、誰もが働き誰もが政治に関わるようになった近代社会では、「公」の領域と「私」の領域とを分ける明確な区別がなくなったから。

エ 身分の差がなくなり、政治の質が落ちてしまった近代社会では、質の高かった「公」と「私」は失われて代わりに「社会」と呼ばれる質の低い領域が生まれたから。

9 「仕事」と同じ成り立ちの熟語を、次の中から一つ選んで答えなさい。

ア 腹痛 イ 救助 ウ 花束 エ 乗車

10 【A】～【D】には、「しかし」などの逆接の接続詞が入らないものが一つあります。最も適するものを、A～Dの中から選んで答えなさい。

11 (9) ・ (10) には、「公」もしくは「私」のどちらかが入ります。それぞれ適する語を答えなさい。

12 ——— 11「民主政を批判していた」とありますが、どのような「批判」ですか。次の空らんの条件に合うように、本文からそれぞれぬき出して答えなさい。

そもそも民主政は (あ 一字) 的な活動であるのに、アテネの市民は (い 九字) を政治に持ち込んでいる、という批判。

13 ——— 12「日本の昔の『長屋』などとはだいぶ違う」とありますが、それはどのようなことですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 一つの建物内に複数の家族が暮らし「公」と「私」が入り交じりやすい日本と違い、ヨーロッパでは、個人的な空間である家中と公共的な場所である家の外とを明確に区別している、ということ。

イ 他の家族と同居し家の中でも外でも他人の目を気にしなければならない日本と違い、ヨーロッパでは、家の内側は「私」の世界であり他人も国家も干渉できないものである、ということ。

ウ 同じ家に違う家族も住みその中で公共性を養ってきた日本人と違い、ヨーロッパ人は、一人ひとりが独自に公衆道徳を身につけていかなければならなかった、ということ。

エ 共同住宅に住み家の中のルールの方を重視しやすい日本人と違い、ヨーロッパ人は、家の中と外とそれぞれのルールに従わなければならぬ、ということ。

14 ——— 13「この『公』と『私』の分離が民主主義の基本構造だ」という考えは、確かに、西洋の市民的生活のある断面を見事に切り出している」とありますが、それはどのようなことですか。次の空らんに合うように、五十文字以内で説明しなさい。

「公」と「私」を違うものと見なす意識が民主主義を支えているというアレントの考えは、(五十文字以内) という西洋の公共意識にも表れている、ということ。

15 次のア～オについて、本文の内容に合うものにはA、合わないものにはBと答えなさい。

ア 民主主義者は公共性こそが民主主義を支えるものと理解しており、その考えを多くの人に伝えた。

イ 人間は自分の財産が増えることで初めて他人を思いやる気持ちが生まれ、「公共精神」も発揮できるようになる。

ウ 民主政や公共性の本質は、意見を述べて自分の考えを表明することである、とアレントは考えている。

エ 公共意識は古代ギリシャから着実に受け継がれており、現在でも世界中の民主主義を支えている。

オ アレントが示した公共性の理解に基づきながら、民主主義について筆者自身の考えを述べている。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

午前中いっぱい毘つくり^ひに費^つやして、蜂場^{ほうじょう}をすべてまわった。木の枝に毘をと^とりつけながら、あのスズメバチの死骸^{しかい}はどうするのだろう、と思った。埋^うめたり焼^やいたりするのだろうか。防護服の下で、汗^{あせ}がとめどなく流れる。ひどく喉^{のど}が渇^{かわ}いたが、しかし必死に作業を進めているうちにその欲求は遠のいた。

最後の蜂場で、まず蜜蜂^{みつばち}の無事を確かめようと、¹ 巣箱^{みどり}に近づいた碧^{みどり}の足がとまる。何十匹^{ひき}もの蜜蜂がひとかたまりになって死んでいた。

「黒江さん、これは」

黒江は木の枝をつかって、蜜蜂のかたまりをほぐす。中からあらわれたひときわ大きな死骸は、スズメバチのものであった。

「² 熱^ねい殺^{ころ}つていうんだ」

スズメバチが巣に近づくと、蜜蜂は「¹ 斉^{いっせ}に羽を震^{ふる}わせて威嚇^{いかく}する。なおも近づいてきた場合には、一斉に取り囲んでスズメバチの動きを封^{ふう}じる。

蜜蜂たちは身体を震わせ、体温を上昇^{じょうじょう}させる。スズメバチが死に至る温度は、四十四度から四十六度。日本蜜蜂はそれより、数度高い。その差を利用して、蜜蜂はスズメバチを殺す。それが、熱殺という方法なのだ。スズメバチを倒^{たお}した蜜蜂もまた、ほとんどの場合は力

を使い果たして死ぬ。

こんなふうにな、と黒江はビニール袋を取り出し、蜂の死骸を片づけはじめた。

どっちも、と言う声が掠れた。うん？ と黒江が顔を上げる。

「どっちも生きるために、やってるんですよ」

蜜蜂を襲うスズメバチも、巣を守るために自分の[※]身を挺する蜜蜂も、同じなのだった。

3 「スズメバチを殺す俺たちも、そうだろう」

黒江は木の枝に吊るした毘を見やる。そうですね、と答えようとした瞬間に、鋭い痛みがこめかみを走った。蜜蜂に刺された時のことを反射的に思い出したが、この痛みは内側から来るものだ。思わずうずくまってしまふほどに激しい。鉄の枷を嵌められて、ぎゅうぎゅうに締めつけられるような痛みと、鋭く太い錐のようなものでこめかみを抉るような痛みが交互におこり、目の前が黒くなったり白くなったりした。おいだいじょうぶか、という黒江の声は、ひどく遠くから聞こえた。

「だいじょうぶ、では、ないかも、しれません」

おいおいおいおい、という声が徐々に遠ざかっていく。

軽トラックに乗せられて運ばれた先は、総合病院だった。寝台に横たわったまま診察を受け、そのまま点滴を打たれた。4 熱中症です、と眼鏡をかけた医師に言われて、まもなく黒江が入ってきた。

「すみません」

なんて謝るんだ、と黒江は首を振りながら看護師にすすめられたパイプ椅子に腰をおろした。

「わたし、財布持ってきてないです」

黒江は、ああ、と頷く。これだろ、と持ち上げた手には、碧の鞆がかかっていた。

「今日はもう、このまま帰っていいから」

わざわざ一度、取りに帰ってくれたらしかった。

それから、診察代はもちろん自分が払うから心配しなくていい、というようなことを黒江はももごと口にする。

※「労災だから」

5 「労災は労働者にしか適用され不是吗」

労働者だと黒江は答えて、俯く。爪の伸び具合を確かめるように、視線を自分の爪の一本一本にゆっくりと当てている。

6 「俺はあんたに、ちゃんと給料を払わないといけない」

「だめです。こっちが指導料を払うからって、無理言っておいてもらってるんですから」

焦って上体を起こそうとしたら、看護師に見とがめられた。やめなさい、と押し戻される。すみません、と言ったら頷いて、歩いていってしまつた。よく見るとこの部屋には数台の寝台が並んでおり、ふたつ隣の寝台でも年配の女性が点滴を受けていた。この時期でも意外と熱中症になる人多いんですよ、と言われているから、彼女も碧と同じ熱中症なのだろう。

「あんたは……役に立ってる」

「そんなことはないです」

そんなことはある。7 黒江の口調はいつになくきっぱりしていた。

「給料はいらないなんて言うな。そんなふうには、自分の値段を安く見積もるな」

まあ、たいした金額は払えないけどな、と頭を掻く黒江に、碧は頭を下げた。仰臥しているので下げられないのだが、頭を持ち上げて何度も頷くような動作をしてみせた。8 そうせずにはいられなかった。

「さっきあいつに電話したら、泣いてたよ」

あいつとは、朝花のことだ。病院に連れて行く、と家に連絡したところ「お父さんがこき使うからだよ」と泣かれて、参ったという。

9 「ますます喋りづらくなるな。あいつと」

「良い子ですね。朝花ちゃん」

さあ、と黒江は首を振る。

「十年以上も、離れて暮らしていた。だから、良い子かどうかは、知らない」

「娘さんと暮らすのは、嫌ですか？」

点滴が落ちるのを眺めながら、碧は問う。黒江のほうは、視線を壁に固定していた。

「嫌だとか、そういうことじゃない。10 俺は、朝花が可愛い」

「こわい?」

「これまで、あいつは何度も電話をかけてきた。お父さんと暮らしたい、って。無理だって何度も言ってるのに」
そして半年ほど前から、その頻度としつこさが急激に増したという。

「黒江さん、たいへん言いづらいのですが」

「なんだ。言え」

「それって、お母さんが再婚するかもしれないから、ですよ。たぶん」

「ⁱおずおずと言うと、黒江は¹¹存外あっさりと「だろうな」と答える。

「よかったよ。よかった」

幸せになってほしいんだ。声に実感がこもっていた。

「麻子と、朝花に。俺から遠いところで。俺には、家族の正しいかたちがわからない」

正しいかたちとは、一体なんなのか。碧にはそれがわからない。自分の育った家庭は、正しいかたちをしていただろうか。父がいて母がいて、ただそれだけで「正しい」を得られるとすれば、¹²正しい、はきと、正しくない。

麻子さんが再婚することは、麻子さん本人からの電話で知ったという。「わたしたち、やっと幸せになれそうなの」と、麻子さんは言ったそうだ。

「もと夫にぶつけるのはちょっと残酷な言葉のような気がするのですが」

まあそう言うな、などと黒江はもと妻を庇う。

「麻子は、さびしい」

自分と麻子はたぶん正反対の環境で育って暮らしてきた人間だった、でも抱えている「さびしい」は、同じだった。わかるか、と言われて、碧は、わかりません、と正直に答える。黒江はさびしかったのか、ということにわずかに驚きもする。

「さびしい人間同士がふたり合わさると、『さびしい』はかえって大きくなる」

「そうでしょうか」

¹³「俺は、朝花を遠ざけたかった。だから、俺がいかにだめな男か知ったら嫌って離れてくれると思ったけどうまくいかなかった。あいつ、なんなんだろう」

苦りきった表情で頭をぐしゃぐしゃと掻く。

「黒江さん」

まさか、と碧は眩く。荒廃した生活を送っていたのはまさか、朝花を遠ざけるためだったとでも言うのか。

「地代を滞納したのも?」

悪戯が見つかった子どものように、黒江がⁱⁱ肩をすくめる。

「あの頃は、麻子の再婚相手は[※]安西輝一郎だと勘違いしてて」

ちらっと聞いたんだよ、デマだったけど、と言う黒江の頬は、[※]羞恥のために[※]紅潮しているように見える。日焼けしているのでわかりにくい、おそろく。

安西の父から麻子さんに黒江のよろしくない暮らしぶりが伝えられ、更に麻子さんから朝花へと伝わるだろうという、そういう発想だったのだ。

「黒江さん」

「なんだ」

「黒江さん……」

「だからなんだよ」

「なんでそんな¹⁴『泣いた赤鬼』の青鬼みたいな思考パターンなんですか」

「なんだその泣いた赤鬼の青鬼って。赤鬼なのか青鬼なのかはっきりしろ」

眉間に皺を寄せている黒江はどうやら『泣いた赤鬼』を読んだことがないらしい。碧は「人間と友だちになりたい赤鬼のために青鬼が悪者になるんですよ、演技で暴れる青鬼を赤鬼が懲らしめて、人間を助けるんですよ。そして、人間たちは青鬼さんはこわいけど赤鬼さんはいい人だね? 違う、いい鬼だね、とか言って仲良くなるんですよ。それで、赤鬼が青鬼にお礼を言おうと青鬼の家に行ったら青鬼がいらないんです。『友だちができて良かったね。元気でね』みたいな手紙があるんですよ。青鬼はそういう、黒江さんみたいな鬼なんです。いや違う、黒江さんが青鬼みたいな人間なのか。とにかくそういうことです」

と早口でⁱⁱⁱまくしたてた。

令和七年度 帝塚山中学校 一次A入学試験問題・国語 (その七)

黒江は「そういうことです、じゃねえよ」と視線を逸らし、首筋を乱暴に搔いた。

「朝花ちゃんは、将来蜂の研究をやりたいんだそうです」

朝花から打ち明けられた「やりたいこと」は、ほんとうは朝花が直接黒江に話したほうがいいと思っていた。けれども彼らが向き合
うには、きつと長い時間と労力を必要とするのだろう。お節介かもしれなかった。けれども黒江に、¹⁵今知っていてほしい。

「お父さんのことは好きかどうかよくわからないけど、蜂蜜が好きなんだそうです。だから」

朝花は、たしかにそう言ったのだった。ただ今のままだと確実に、母は反対するだろう。蜜蜂にかかわる仕事だからいけない、とい
うようなことではなく、自分が決めたことにはなんでも反対する人なのだと朝花は悩んでいた。だから、どうすればいいか父に相談し
たいのだと。

黒江は言葉失っているようだった。しばらくしてから、だけど、と言いかけた声が妙に甲高く、咳払いをする。

「だけど、今みたいに学校を休み続けるんじゃ、話にならないだろ」

母親ともちゃんと、話し合わないと、と続ける。

「それは朝花ちゃんに言ってください」

黒江さんが、と強調した。そうだな、という答えを、目を閉じて聞く。

(寺地はるな『今日のハチミツ、あしたの私』より)

※黒江さん：安西から借りた土地で蜜蜂からハチミツを集め、それを売っている。

※身を挺する：自分をぎせいにする。

※労災：「労働災害」の略。

※仰臥：あおむけにねること。

※安西輝一郎：黒江に土地を貸している地主。

※羞恥：はずかしく思う気持ち。

※紅潮：顔が赤くなること。

1 ——— 1 「巣箱に近づいた碧の足がとまる」とありますが、この時の碧の気持ちはどのようなものですか。最も適するものを、次
の中から選んで答えなさい。

ア スズメバチに蜜蜂を殺されてしまったことへの悲しみ。

イ 多くの蜜蜂の命が短時間で奪われたことへの恐怖。

ウ 一匹で多数の蜜蜂を殺したスズメバチへの嫌悪感。

エ 多くの蜜蜂が異常な様子で死んでいることへの驚き。

2 ——— 2 「熱殺」とありますが、それはどのようなものですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 蜜蜂がかたまつて体を震わせ体温を四十六度以上にしてスズメバチを殺すという命がけて巣を守る行動。

イ 蜜蜂がスズメバチをぎゅうぎゅうに取り囲むことで圧力をかけて温度をあげ殺すという多くの仲間を守る行動。

ウ スズメバチと蜜蜂の死に至る温度の差を利用して、スズメバチの熱で殺すという巣全体を守るための行動。

エ 多くの場合蜜蜂も死んでしまうが、スズメバチという敵を殺し種全体を守るために編み出された行動。

3 ——— 3 「スズメバチを殺す俺たちも、そうだろ」とありますが、どういうことですか。最も適するものを、次の中から選んで答
えなさい。

ア スズメバチ、蜜蜂、人間はそれぞれが命の重みを感じながらも誰かの生命を奪いながら生きている点で同じだということ。

イ 蜜蜂はスズメバチに襲われ、スズメバチは人間に殺されるという食物連鎖に組み込まれている点で同じだということ。

ウ ハチミツを手に入れる、巣を守る、生活を守るなど目的はそれぞれだが生きるために他者の命を奪う点で同じだということ。

エ リスクのある方法でスズメバチを殺す蜜蜂も民でスズメバチを殺す人間も生きるためにはしかたがない点で同じだということ。

4 ——— 4 「熱中症ですね」とありますが、碧が熱中症になるほど集中している様子がわかる二文続きの表現を本文からさがし、は
じめの五字をぬき出して答えなさい。

令和七年度 帝塚山中学校 一次A入学試験問題・国語 (その八)

5 ——— 5 「労働者だと黒江は答えて、俯く」とありますが、この行動から黒江のどのような気持ちがわかりますか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 碧に対して好意を抱いているが、それをこの状況で伝えてよいものか迷っている。

イ 碧を労働者にすぎないと評価しているが、それを伝えてしまうことに気兼ねしている。

ウ 碧のことを都合の良い働き手だと思っているが、果たしてどう伝えるべきか悩んでいる。

エ 碧のことを高く評価しながらも、その気持ちをはっきりと伝えることに抵抗を感じている。

6 ——— 6 「俺はあんたに、ちゃんと給料を払わないといけない」『だめです。こっちが指導料を払うからって、無理言っておいてもらってるんですから』とありますが、この表現から読みとれることとして適さないものを一つ選んで答えなさい。

ア 黒江は碧にいままで給料を払っていないことを心苦しく思っている。

イ 碧は黒江が要望を聞いてくれることに感謝している。

ウ 碧は黒江に養蜂の指導をしているが、お金を受け取ることは断っている。

エ 黒江は碧にお金をもらいながら、蜂に関する知識などを教えている。

7 ——— 7 「黒江の口調はいつになくきっぱりしていた」とありますが、それはなぜですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 気持ちを表に出すことは少ない黒江だが、自分の価値を低く見積もられていることに激しい怒りを感じたから。

イ 黒江は口下手で感情を出すことは苦手だが、感謝の気持ちを抱えていることは伝える必要があると思ったから。

ウ 黒江は疑い深い性格で物事を断定することは少ないが、碧に対する熱い気持ちに間違いはないと思えたから。

エ 普段は大人しく冷静なことが多い黒江だが、碧を肯定する言葉を碧自身に否定されたことで意固地になったから。

8 ——— 8 「そうせずにはいられなかった」とありますが、それはどのような気持ちを表していますか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 謝罪 イ 代謝 ウ 深謝 エ 謝絶

9 ——— 9 「ますます喋りづらくなるな。あいつと」とありますが、なぜ黒江はこのように言っているのですか。その理由を説明した次の文の空らんの条件に合うように、本文からそれぞれぬき出して答えなさい。

黒江と朝花は長い間（あ 九字）うえに、黒江が碧を（い 四字）ので病院に運ばれるはめになった、と朝花は思っている。

そうだったから。

10 ——— 10 「俺は、朝花がこわい」とありますが、それはなぜですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 思い込みが激しく、その思い込みをもとに黒江をせめてくることもあるから。

イ 黒江のねらいや予想を裏切るような行動をとるよくわからない存在だから。

ウ 黒江の思いをあえて無視して朝花自身の意見を押し通す強情な性格だから。

エ 黒江に対する態度がその時の気分で急変するような自己中心的な人物だから。

11 ~~~~~ i ~ iii とありますが、それぞれ本文内でどのような意味を示していますか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

i 「おすおす」と ア 恐れなどによってためらいながら動く様子

イ 自信の無さからきざみにふるえている様子

ウ 相手の反応を見ながらゆっくりと話す様子

エ 口ごもりながらもなんとか話しかける様子

ii 「肩をすくめる」 ア 緊張している様子 イ あきれる様子 ウ 残念に思う様子 エ 恥じらう様子

iii 「まくしたてた」 ア 相手にしゃべる機会を与えないほど勢いよくしゃべり続けた

イ まったく言葉につかえることなく、とてもスムーズに話した

ウ 気持ちの高ぶりから徐々に声量が大きくなりながら話した

エ 相手をやり込めるためにあえてスピードを上げて話した

令和七年度 帝塚山中学校 一次A入学試験問題・国語（その九）

12 ——— 11「存外」とありますが、同じ「存」の意味を含む言葉として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 存続 イ 保存 ウ 存分 エ 存在

13 ——— 12「正しい、はきっと、正しくない」とありますが、どういうことですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 多様な家の在り方が認められているからこそ家族の正しいかたちとはさまざまで、他人には決められないということ。

イ 正しさとは常に変化していくもので、父母がいることが今後常にも常に家族の正しさの証明になるとは限らないということ。

ウ 家族の正しいかたちというものは両親がそろっていれば良いという単純なものではないはずだということ。

エ 家族の正しいかたちというものは存在せず、追い求めたところで叶うことは絶対にはないものだということ。

14 ——— 13「俺は、朝花を遠ざけたかった」とありますが、それはなぜですか。五十五字以内で答えなさい。

15 ——— 14『泣いた赤鬼』の青鬼みたいな思考パターン」とありますが、なぜそのように言うのですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 人間と友達になろうとする赤鬼の願いをかなえるため悪役になる青鬼と、新たな幸せを願う朝花のために悪役を演じようとする黒江の行動や振る舞いに共通性を感じたから。

イ 赤鬼のためにあえて悪者になりその後は姿をくらませた青鬼と、朝花たちの幸せのためにあえて自分の悪評を流しつつ娘たちから距離を取ろうとする黒江に共通性を感じたから。

ウ 赤鬼のために人間の前で暴れるという手段を選んだ青鬼と、朝花たちのために地代を滞納するという手段を選んだ黒江との間に他人を困らせてもしかたないと考えるところという共通性を感じたから。

エ 赤鬼の願いをかなえた後はそのもとを去ろうと決めていた青鬼と朝花たちの幸せのために最愛の娘を傷つけた黒江との間に、自分の幸せを軽く考えるところという共通性を感じたから。

16 ——— 15「今知っていてほしい」とありますが、そう思ったのはなぜですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 朝花の将来の夢や悩みを聞いていた碧は、初めて黒江が朝花の話題を出した今こそそのことを伝えるよい機会だと考えたから。

イ 朝花が黒江と同じハチミツをとる仕事をしたいと知る碧は、娘の幸せを願う黒江なら相談に乗るはずだと考えたから。

ウ 碧は黒江と朝花の和解には時間が必要だと感じていたが、共通の話題を見つけた今がそのチャンスだと考えたから。

エ 黒江から朝花への思いを理解した碧は、朝花が助けを求めていることを教えればお互いが向き合う機会になると考えたから。

令和七年度 帝塚山中学校 一次A入学試験問題・国語 (その一〇)

三

次の1～10の――部のカタカナを漢字に、11～15の――部の漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 寒い冬に備えて、アリはたくさんのおべ物をチヨゾウしていた。
- 2 雨が降ったため、運動会はジュンエンになってしまった。
- 3 うそは絶対についてはならないと、母から厳しくチュウコクされた。
- 4 我々は今回のような事故が二度と起こらないようにゼンシヨします。
- 5 夜の静けさをヤブるかのように、サイレンの音が鳴りひびいた。
- 6 遠足で長い道のりを歩いてきたので、足がボウのようになってしまった。
- 7 現代はまちがった情報でも、すぐにカクサンされる世の中になっている。
- 8 音楽会に向けて、自分の歌をロクオンして聞いてみる。
- 9 クラス全員で話し合い、修学旅行のハンを決める。
- 10 この新しいシャツはしわになりにくいソザイで作られている。
- 11 あれた土地を耕して、ジャガイモやとうもろこしを育てる。
- 12 ペルシャじゅうたんには、さまざまな美しい模様が織り出されている。
- 13 君の意見はデータに基づいておらず、単なる推測に過ぎない。
- 14 スペイン語やポルトガル語は同じ系統の言葉だと言われている。
- 15 ボランティア活動に努める人々の姿に感動した。

[illegible]

令和7年度 帝塚山中学校
1次A入学試験問題・国語 解答用紙

受験番号

ここにシールを貼ってください



251110

5
エ

1
エ

6
ウ

2
ア

7
イ

3
ウ

8
ウ

4
防護服の下

15
ア
B
イ
B
ウ
A
エ
B
オ
A

14
「公」と「私」を違うものと見なす意識が民主主義を支えているというアレントの考えは、

に扱
う

ば
な
ら
ず
、
また
子
供
も
大
人
と
対
等

そ
れ
な
り
の
公
衆
道
徳
を
守
ら
な
け
れ

家
の
外
と
い
う
公
共
的
な
場
所
で
は
、

13
ア

12
あ
公
い
個
人
的
で
私
的
な
動
機

9
エ
A
9
私
10
公

5
ア
6
エ
7
ウ
8
ウ

3
特
に
、
西
洋
4
イ

1
ア
2
個
人
の
意
識
と
公
共
性

13
すいそく

14
けいとう

15
つとめる

9
班

10
素材

11
たがやして

12
おり

5
破る

6
棒

7
拡散

8
録音

1
貯蔵

2
順延

3
忠告

4
善処

15
イ

16
エ

14
黒江は、家族の正しいかたちがわ
か
ら
ず
、
朝
花
が
幸
せ
に
な
れ
る
と
思
っ
た
か
ら
。

12
ウ

13
ウ

10
イ

11
i
ア
ii
エ
iii
ア

9
あ
離
れ
て
暮
ら
し
て
い
た
い
こ
き
使
う